



今月のお題

子どもの「やりたい」ことが 実現できる環境は整っていますか？

保育室などの環境の中で、製作が好きな子どもがいれば製作コーナーの設置、運動的なことが好きな子どもがいれば身体を動かす環境の設置など、子どもの「やりたい」ことが実現できる環境を整えてみましょう。乳幼児の深い理解と環境構成の変化は関連します。

見直しの視点

☐ 乳幼児の理解は保育の原点

理解の手法はいろいろとありますが、子どもの内面や行動の意味が見えない時は写真や動画を活用することが重要です。意味が見えない時に、園内の職員に撮影を依頼し、保育が終わった後に数名で観ることによって、新たな視点が生まれる可能性があります。

☐ 障害特性と個々の特性

障害のある子どもには、ほかの子どもにはないような特性がある場合があります。いわゆる常同行動（くり返し行われる行動）など、意味が見えづらい場面に出合います。丁寧にかかかわると意味が見える場合もあります。一緒にやってみるのも1つのかわりです。

☐ 1日の保育の流れは子どもの思いに沿っていますか？

忙しい保育、課題活動の多い保育、忙（せわ）しない保育では先生方の思いも子どもの思いも忙しい状況に追い込まれます。障害のある子どもにとっては苦手な状況です。少しだけ時間の配分やルーティンを見直してみませんか。